

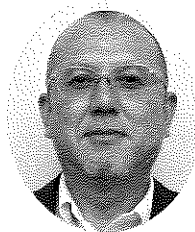
会報

発行所

広島市中区八丁堀11番28号
朝日広告ビル4F
広島県高等学校
PTA連合会
電話(082)223-3347
FAX(082)223-3351
HP hiroshima-koup.sakura.ne.jp

★ 広島県高P連

NO. 156



就任御挨拶

広島県高等学校PTA連合会

会長 北村 正次

平成二十八年度広島県高等学校PTA連合会定例総会で会員の皆様方の同意を頂き、承認され、今年度二期目の広島県高等学校PTA連合会の会長を務めさせて頂くことになりました北村です。昨年に引き続き、私のモットーである、「子供達の為に」を基本に頑張っていきたいと思っておりますので、皆様方の御支援、御協力の程、宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年、会長を一年間務めさせて頂いた中で、県内各地の総会、研修会、全国の会長会、研修会、又各機関の会議等に出席させて頂きました。

そんな中で思った事は、それぞれの取り組みがあり、それぞれの地域のやり方で子供達の為に頑張っておられる事です。所変われば、考え方も違います、子供の数だけ保護者がいて、それだけ考え方も違うのは当たり前です。しかし、それぞれの考え方の根本はただ一つ、「子供の為」だと思います。その一つ一つの思いを纏めて行くこと

によって単Pの力になり、その単Pの

集まりが、地区P連になり、その地区P連の集まりが県高P連になり、その集まりが全国となっていくます。それぞれの集まりの思いを纏めて行くのが、それぞれの会長の役目だと思います。

一つ一つの小さな「子供の為」の思いが纏まれば、大きな「子供の為」に変わっていきます。その思いを共有しこれからも「子供の為」に頑張っていくましよう。

今年度もスタートし、終わった行事もあります。第一回の単P会長研修会、これは第四十回全国高等学校総会文化祭(2016ひろしま総文)へのオープニングセレモニーへの参加、進路対策委員会の県内国公立大学及び海上保安大学の進学説明会、中四国大会、全国大会への参加、三次地区主管の県大会、調査広報委員会の先進校視察、健全育成委員会の全県一斉あいさつ運動、総務委員会の教育委員会への要望書作成、第二回単P会長研修会等の事業にとり掛かります。

私事ですが、仕事上樹木を扱うことが多くありますが、樹木の成り立ちを見ると、子育てに似ていると思います。樹木の枝葉を子供に例えると地面の中にある根っこが親だと思えます。枝葉を大きく広げるために、根っこは肥料や水をどんどん幹に送り、風雨に耐えるように、しっかりと土中で踏ん張っています。枝葉の子供もその環境に慣れながら、いろんなものを吸収していきます。それを一年一年毎年繰り返しながら少しずつ大きくなっていきます。害虫や病気にやられることや、冬の厳しい環境に耐えながら、次の年には必ず新しい芽を出し、一回り大きくなります。

その前の年には根っこは地上にある枝葉以上に根を張り巡らせ次の年に備えます。総文祭での自分達で考え、行動し、生き生きしている姿には感動させていただき、広島創生イノベーションスクールでの子供達の物事をスポンジのように吸収していく速さは素晴らしいです。子供達は今すぐ頑張っています。素晴らしい枝葉をどんどん出して頂いて頑張っている子供達に負けられないように大人も根っこを張り巡らせ頑張る、その子供達を下から支えて行きましよう。

終わりに、会員の皆様方がより一層子供達の為に頑張る続けPTAが活発に活動していける事を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

平成二十八年定例総会

とき 平成二十八年六月九日（木）
ところ 広島県民文化センター

平成二十八年定例総会を、県内加盟各校より、被表彰者を含む三百二十五名もの多くの会員の皆様に御出席いただき、開催致しました。

司会は、前年度県高P連総務委員長 広島県立広高等学校PTA前会長 濱本智己氏に行っていたいただきました。（慣例として、司会者は前年度県高P連総務委員長が行うことになっております。）開会のことばを金井栄一副会長が行い、国歌斉唱のあと、北村正次会長が挨拶を行いました。



続いて、永年のPTA活動に御尽力いただいた会員の皆様への感謝状・記念品贈呈が行われました。まず始めに

広島県教育委員会教育長感謝状が、下崎邦明教育長より授与され、受賞者九名を代表して、広島市立広島商業高等学校前PTA会長 金廣絵美氏が受領されました。次に、県高P連会長感謝状が、北村正次会長より授与され、百六十三名を代表して、広島県立安芸南高等学校前PTA会長 三宅聡氏が受領されました。



被表彰者を代表し、広島県立湯来南高等学校前PTA会長 上原周也氏が謝辞を述べられました。

次に、御来賓の広島県知事 湯崎英彦氏、広島県議会副議長 佐々木弘司氏、広島県教育委員会教育長 下崎邦明氏、広島市教育委員会青少年育成部長 荒瀬直美氏、広島県公立高等学校長協会会長 長森鳩勝也氏より御祝辞を頂きました。御祝辞を頂いた五名の御来賓以外に、広島県PTA連合会会長 山田睦浩氏、広島市PTA協議会会長 開地義明氏、

広島県公立学校事務長会会長 中本典之氏、県高P連元会長 上田利徳氏、小川嘉彦氏に御臨席いただきました。

開会行事終了後、定足数について土谷流廣事務局長が行い、総会成立の報告をいたしました。

総会議事に移り、議長に土居篤史副会長を選出し、議事録署名人に、広島県立大竹高等学校PTA会長 中野雅崇氏、広島県立祇園北高等学校PTA会長 長植木栄壮氏を選任しました。平成二十七年定例会務・事業報告が根来寿雄副会長より行われ、提案どおり承認されました。会計決算報告は、土谷流廣会計が会計ごとに決算内容を説明、監査報告を、監査委員の広島県立庄原特別支援学校PTA会長 伊藤ゆかり氏が報告し、承認されました。会則改正につり、会則第七条第二項の副会長三名から四名以内の改正を提案、承認されました。

次に役員選任に移り、平成二十八年度県高P連会長には引き続き、北村正次会長が選任されました。県高P連副会長五名には、広島県立河内高等学校PTA会長 土居篤史副会長、広島県立府中高等学校PTA会長 根来寿雄副会長と、新たに、広島県公立高等学校長協会から広島県立廿日市高等学校 川端一弘校長、広島県立五日市高等学校前PTA会長 伊福聡氏、広島市立広島工業高等学校前PTA会長 岡本知子氏が選任されました。又、あらか

じめ各地区連合会より選出された県高P連幹事、監査、常任委員については、提案どおり承認されました。

旧役員を代表して、退任された金井栄一副会長の挨拶並びに、新役員を代表して北村正次会長が挨拶を行いました。

平成二十八年定例事業方針（案）事業計画（案）について北村正次会長より説明を行いました。

続いて予算（案）を提案し、議決代表者の県立高校会長から、生徒表彰について、繰越金等が若干多いようなので、一名ではなく学校規模によっては男子一名女子一名に増やしてはどうかと質問があり、県高P連会長が、各校の学校規模の違いがあるが、一校一名で行っている。最初予算は多く組んでいるのでそれが余っている。男女一名ずつでというのであれば今後検討させていただきますと回答し、予算案は無事承認されました。

議事が終了、閉会のことばを根来寿雄副会長が行い、総会を閉会いたしました。

その後、リーガロイヤルホテル広島にて、新旧役員・会員の歓送迎会を開催した情報交換会が行なわれ、三百十三名もの多くの会員の方が参加され、交流を深めていただき、盛会のうちに終了致しました。

（県高P連事務局）

平成二十八年 第一回常任委員会

とき 平成二十八年八月二十三日
 ところ 広島YMCA国際文化センター
 本館会議室

平成二十八年第一回常任委員会が開催され、三十七名の会員が参加しました。司会は、伊福聡副会長が担当し、続いて、北村正次会長の挨拶のあと、御来賓として出席された、広島県教育委員会事務局生涯学習課長十時明子氏より御挨拶を頂きました。

次に、土谷流廣事務局長より、定数数の報告を行い、常任委員会成立を報告致しました。議長には根来寿雄副会長を選出し、議事録署名人に広島県立呉工業高等学校PTA会長中島大氏、広島県立世羅高等学校PTA会長和泉秀宣氏を選任しました。

続いて議事にうつり、まず、顧問・参与の委嘱について、人事案を提案し、原案どおり承認されました。次に、平成二十八年年度県高P連事業については、
 ①単P会長研修会
 第一回（七月三十日）
 リーガロイヤルホテル広島外

第二回（平成二十九年一月二十一日予定）
 広島YMCA国際文化センター
 国際文化ホール外

第一回は時間の関係上、県連会長・副会長・事務局で計画し、第二回は、

研修委員会が中心となり、委員会活動の一環として企画立案・実施することなどの説明をしました。

② 広島県大会

平成二十八年十月二十二日（土）

三次市市民ホールきりり

三次地区連合会主管により実施する。

③ 進学説明会

平成二十八年八月十一日（木）

広島県民文化センター

平成二十五年より始めた事業。進路対策委員会が中心となつて行う。会場の確保が困難のため、八月に開催する。

④ 全県一斉あいさつ運動
 平成二十八年十一月一日（火）
 昨年に引き続きポスター募集を行う。などの報告があり、議事が終了。その後、各委員会に分かれて委員会協議を行いました。

各委員会では委員長、副委員長の互選並びに本年度事業計画について協議いただきました。

その後全体会で各委員会委員長より委員長・副委員長の発表、一年間の委員会活動について報告され、すべての議事が滞りなく終了致しました。各委員会の委員長・副委員長は次のとおりです。
 （県高P連事務局）

総務委員会	(委員長)	広島県立安芸南高等学校	PTA会長	二宮 仁
	(副委員長)	広島県立広島高等学校	PTA会長	武内 哲
研修委員会	(委員長)	広島県立安古市高等学校	PTA会長	久保田 勇
	(副委員長)	広島県立黒瀬高等学校	PTA会長	焼廣 修
調査広報委員会	(委員長)	広島県立高陽東高等学校	PTA会長	寺岡 みゆき
	(副委員長)	広島県立安芸高等学校	PTA会長	木下 眞由美
健全育成委員会	(委員長)	広島県立廿日市高等学校	PTA会長	香山 修至
	(副委員長)	広島市立広島商業高等学校	PTA会長	三好 尚子
進路対策委員会	(委員長)	広島県立安西高等学校	PTA会長	山路 英男
	(副委員長)	広島県立東城高等学校	PTA会長	桑原 泉

第五十八回

中国・四国地区高等学校

PTA連合会大会香川大会

とき 平成二十八年七月十五日（金）
 ところ レクザムホール大ホール

今年度の中国・四国大会は、香川県高等学校PTA連合会の主管により、「発信！PTAとふるさとのソコチカラ」を大会テーマとして、千九百名を超す参加者が集い開催されました。



開会行事では、中国・四国地区高等学校PTA連合会の泉満会長と一般社団法人全国高等学校PTA連合会の佐野元彦会長の挨拶がありました。泉会長からは、これからの子どもたちを取り巻く環境の変化や課題解決の

ためには、更なるPTA活動の推進が必要であり、併せて地域の活性化も重要となってくる。そのためには、多様な個性を伸ばすための多様な学びが求められると話されました。

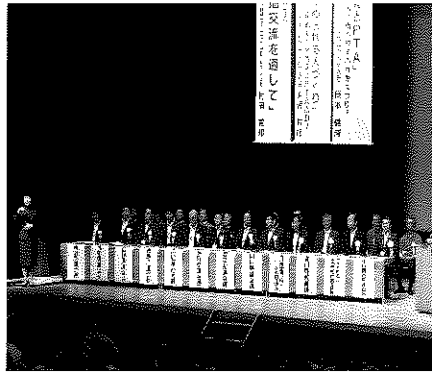


次に佐野会長からは、少子化による今後の生産人口の減少に対応するために人工知能の活用や様々な技術開発が今後益々進展すると想定され、それらに対応するための知識や技術の習得が求められる時代となっていく。それと併せて子どもたちが希望を持てる将来を描くための志が抱けるようPTAの活動を進めていくが必要であるという内容の挨拶がありました。

挨拶に続き、浜田恵造香川県知事と大西秀人高松市長から歓迎の挨拶をいただきました。今回の大会では、香川県立三木高等学校のボランティア同好会に所属する生徒二名が手話通訳ボラ

ンティアの方と共に「手話通訳」を担当してくれました。

本年4月には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）が施行され、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向けての取り組みが様々な場面で行われています。昨年の岡山大会で講演いただいた竹内昌彦先生の「障害を理解することが大切である」という言葉を思い出すと、ボランティア活動を通じて、共生社会の実現に対する意識や実践が子どもたちの中に着実に芽生えてきていることを実感することができました。



開会行事に続き、ミュージカル、オペラ、歌舞伎等のジャンルを超えて、国内外で幅広い舞台づくりを精力的に手掛ける演出家の宮本亜門さんによる講演がありました。

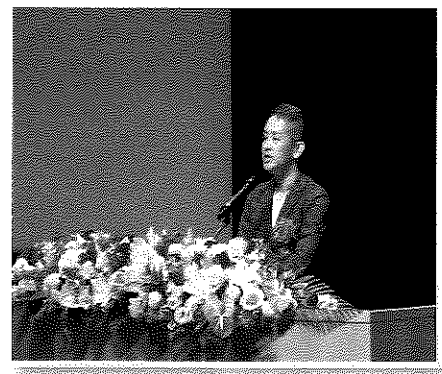
現在宮本さんは、香川県のプロジェクト「愛にきてうどん県」のアーティスト「宮本亜門」のPRを行っており、また祖父が坂出市出身であることから「香川県は自分のふるさとである」と話されました。

講演は「違うから面白い、違うないから素晴らしい」という演題で進められ、自身の幼少期の出来事や家族との思い出、演出家としての活動を通じて意識変革などについて話をしていただきました。

講演では、宮本さんが新橋演舞場前の喫茶店を営む両親の元に生まれ、幼い頃から演舞場に入りしたこと、松竹歌劇団所属の元ダンサーだった母の影響で日本舞踊を習い始めたことという生い立ちや、中学生の時に仏像や神社仏閣の美にも魅せられ、小遣いを貯めて奈良や京都の仏像を観るため多くの旅行をしたこと等を話されました。

また、そのような性格から友達も少なかったため、高校生の時には人と違う考えや違う興味を持つことにストレスを感じ、窓のない部屋に十ヶ月引きこもりミュージカルやクラシック音楽を聴く生活を続けたこと等、当時は現在の自分とは全く違う性格であったこと等の話もありました。

宮本さんは、その後学校に戻り演劇に出会い、主演した演劇で認められたことが自信となり、人と違う意見や視



点、発想が当たり前であるということに気づいたということや、大学進学後ミュージカルのダンサーオーディションに合格し、ダンサーや振付師等を持つこと、その後外国での演出活動の中で、仕事を通じて人のために何がしたいのかということについて考えたとき、人の可能性を信じ人々に感動と喜びを伝えるということに気づいたと話されました。最後に何のためにものごとを行うのかという目的や志を持つことの大切さを忘れないで欲しいということを投げかけられました。

午後からは研究協議として、三校の取組みについての発表がありました。最初に「学校教育とPTA」をテーマとして「地域で織り成すふれあまつり」に関し、岡山県立井原高等学校PTA会長から発表がありました。井原高校は平成二十四年に再編され、

普通科と専門科が設けられ、両科の特色を生かしながら新しい学校としての両科の連携・調和を図っており、PTA活動においてもPTA役員とクラス役員が連携し各種の学校行事や学校の広報活動を支えているということです。

PTA活動の特徴としては、地域の伝統行事である祭りや学校行事を合同開催し、生徒の意識の中に地域とのコミュニケーションの重要性や自分自身が将来地域社会の一員としてどう関わっていくのかという自身への問いかけにつながったことが大きな成果であると話されました。

次に「進路指導とPTA」をテーマとして「社会に求められる人づくり」を探求型人材育成とPTA活動」に関し、高知県立高知工業高等学校PTA会長からの発表がありました。

高知工業高校は、百年の歴史を持つ伝統ある学校で、「磨け学 技 鍛えよ体 徳 誇れ郷土」の校訓のもと、生徒・教職員・保護者が一体となり、創始者の意思を引き継ぎ日本一の工業技術者の育成、日本一の工業高校づくりを目指した学校です。PTA活動の特徴としては、PTA・同窓生により生徒の模擬面談を実施しており、卒業生である県内企業で活躍する経営者や人事担当者が生徒に対する模擬面談を行っている、生徒にとっては緊張感漂う面接練習を本番直前に行うことができる貴重な面接指導となっているとい

う成果についても話されました。

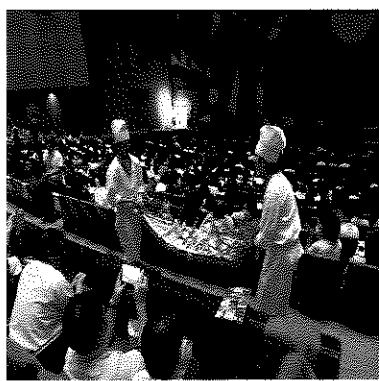
最後に「ボランティアとPTA」をテーマとして「被災地交流を通して」に関し、香川県立琴平高等学校PTA会長からの発表がありました。

琴平高校は、琴平町、まんのう町をはじめ近隣の市町からの通学者が多い地域密着型の高校であり、文武両道を目指して部活動に入部する生徒が多い学校であります。本大会で発表のあった「なぎなた部」は高校総体や国体等の大会で優勝する等伝統ある部活動を行っています。PTA活動の特徴としては、阪神・淡路大震災の十年後に結成された「とらすとK」という同好会活動にあります。とらすとKの活動には、「神戸・宮城の被災地の交流活動」と「被災地からのメッセージを地元琴平に伝える活動」の二つの柱があり、ボランティア活動を通じて被災地と地元を元気にする活動を十二年間継続して行われています。活動に参加する生徒は、実際に被災地を訪れ地元の方から説明を聞くことで、遠い被災地での出来事が自分の言葉で語ることができ、被災者の人生を思い、また自身の人生を思うことで、これからの生き方を考える上での貴重な体験となったという話がありました。

研究発表後、高校生による発表があり、最初に香川県立琴平高等学校なぎなた部による「リズムなぎなた」が行われました。リズムなぎなたは、なぎ



なたの基本動作や応用技を組合せて集団で演技するもので、厳しい練習により全国大会優勝が続いている素晴らしい演技に参加者は魅了されました。



次に坂出第一高等学校食料科料理研究部による「料理パフォーマンス」の発表がありました。料理研究部は調理技術の更なる向上を目指して結成された部であり、技術の向上だけでなく、食に携わる人間として責任と信頼を学ぶことを目的として活動されています。

す。

四季をイメージした句の魚を使った「姿造り」を瞬時に調理した技術に生徒の皆さんの努力と熱意が伝わってきました。最後に、香川県立高松商業高等学校書道部による「書道パフォーマンス」の発表がありました。書道部は書道パフォーマンス甲子園で四年連続四度目の出場で見事優勝の栄冠に輝き、全国の頂点に立った部です。現在大会二連覇を目標に日々練習を重ねており、地元香川にゆかりのある「空海」の書をモチーフにした息のあったパフォーマンスによる完成した大きな書は圧巻でした。



この後閉会行事に移り、中国・四国地区高等学校PTA連合大会は香川県から次期開催県の山口県に引き継がれ、無事閉会しました。
(県高P連調査広報委員 和泉秀宣)

広島県高等学校PTA連合会

高校生総合保障制度

この制度の特徴

〈高校生総合保障制度は、こども総合保険のペットネームです。〉

1. 団体割引25%適用・損害率による割引15%適用
2. 病気・けが・賠償事故・携行品等を補償
3. 国内外を問わず24時間の傷害・病気等を補償
○携行品（学校管理下動産担保特約）の補償は学校管理下中のみです。
○夜間・休日も24時間事故の受付をしております。
4. 「スクールメディカルデスク24」で24時間無料電話健康相談サービス付き
○「スクールメディカル・デスク24」は、東京海上日動メディカルサービス㈱との連携により、同社からご提供いたします。
※詳細はパンフレットをご確認ください。
※補償期間(保険期間)は1年となります。(平成28年4月25日午後4時より平成29年4月25日午後4時まで1年間)
※中途加入は補償期間が異なります。詳しくは取扱代理店までお問合せください。

〈保険金額と掛金(保険料)〉

補償内容	W2タイプ	W1タイプ	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ
賠償責任 (記録情報限度額500万円)	1事故 2億円 限度	1事故 1億円 限度	1事故 1億円 限度	1事故 5,000万円 限度	1事故 3,000万円 限度
病気入院日額 (1日あたり)	5,000円 (4,500円)	4,000円 (3,500円)	—	—	—
傷 害	入院日額 (1日あたり)	4,000円 (3,500円)	3,800円 (3,500円)	2,900円 (2,700円)	2,500円 (2,100円)
	通院日額 (1日あたり)	3,400円 (3,200円)	2,400円 (2,300円)	2,400円 (2,200円)	1,300円 (1,200円)
手術	入院日額の10倍(入院中の手術)または5倍(入院中以外の手術)となります。 傷の処置等のお支払の対象外の手術があります。				
死亡・後遺障害	239.0万円 (232.6万円)	221.2万円 (214.7万円)	218.3万円 (208.3万円)	202.0万円 (185.2万円)	137.6万円 (126.2万円)
被害事故補償	1事故 1,000万円 限度	1事故 1,000万円 限度	1事故 1,000万円 限度	—	—
育英費用	100万円	100万円	100万円	50万円	—
携行品損害補償 (学校管理下動産担保特約) 〈免責金額(自己負担額)〉	1年間で10万円限度 〈1事故1,000円〉	1年間で10万円限度 〈1事故1,000円〉	1年間で10万円限度 〈1事故1,000円〉	1年間で10万円限度 〈1事故1,000円〉	—
年間保険料	14,650円	11,650円	9,650円	6,650円	4,650円
制度維持費	350円	350円	350円	350円	350円
制度掛金 (1年分)	15,000円	12,000円	10,000円	7,000円	5,000円

○携行品の損害保険金は1年間で10万円が限度(注)となります。

(注)携行品の損害保険金のお支払額の合計が保険金額(10万円)と同額となった場合は、この携行品の補償は損害発生時に終了します。

※こども総合保険については被保険者(保険の対象となる方)ご本人の人数により保険金額が一部変更となることがあります。(上記保険金額は被保険者(保険の対象となる方)ご本人の人数が、5,000名以上10,000名未満の場合です。3,000名以上5,000名未満の場合は()内の保険金額となります。) ※制度掛金は制度維持費350円を含んでおります。

※上記保険料は職種別Aの方を対象としたものです。お子様(被保険者-保険の対象となる方)が継続的にアルバイトに従事している等で、職種別Aに該当しない場合は、保険料が異なりますので、取扱代理店にお問い合わせください。

※病気入院(入院医療保険金)について：新規ご加入時の支払責任の開始時より前に被った病気については保険金お支払いの対象となりません。(ただし、新規ご加入時の支払責任の開始する日からその日を含めて1年を経過した後に生じた保険金支払事由については、保険金お支払いの対象となります。)

このご案内はこども総合保険の内容についてご紹介したものです。保険の内容はパンフレットをご確認ください。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、取扱代理店までお問い合わせください。

〈お問合せ先〉取扱代理店 ㈱東海日動パートナーズ 中国四国 TEL:0120-018-217 平成28年3月作成(15-T10994)

(引受幹事保険会社)



TOKIOMARINE
NICHIDO

東京海上日動

(担当支社) 広島支店 広島中央支社
広島市中区八丁堀3-33 広島ビジネスタワー
TEL 082-511-9194

パンフレット・重要事項説明書は上記お問合せ先にご請求下さい。

(共同引受保険会社)



AIU損害保険(株)
広島支店

Member of AIG
広島市中区基町11-10
合人社広島紙屋町ビル
TEL 082-222-4351

この保険契約は、以下の保険会社による共同保険契約であり、東京海上日動火災保険が他の引受保険会社の代理・代行を行います。各引受保険会社は、契約締結時に決定する引受割合に応じて、連帯することなく単独別個に保険契約上の責任を負います。なお、引受割合につきましては、団体窓口にご確認ください。

〈引受保険会社〉 東京海上日動火災保険(幹事保険会社) AIU損害保険株式会社